

ギリシャ経済概況(2021年7月号)

1 経済動向

・1日、GEK テルナは株主年次総会で、同社 CEO は「10億ユーロの投資を進めるために、エリニコ(旧国際空港跡地)のカジノ・コンプレックスの開発を進めるために、コンソーシアムの過半数株式を獲得するべくモヒガン(Mohegan、注: 米国のカジノ運営会社)と協議している。」と述べた。

・1日、ミツォタキス首相は、クサンシ訪問の際、野心的な計画の開始により、東マケドニアとトラキアは天然ガス輸送網に置かれると述べた。同首相は、ガス供給会社 DEDA による、地域の5つの州都、ドラマ、エヴロス、カバラ、ロドピおよびクサンシへのガス供給拡大に関するイベントに参加していた。

・1日、中期財政戦略枠組み 2022~2025 が国会の本会議で可決された。スキラカキス財務副大臣は、「方向性を変える唯一の機会であり、ミツォタキス政権はこの無二の機会を無駄にすることはない。」と述べた。

・2日、エネルギー・環境省、在ギリシャ・フランス大使館および6企業が、多くのエーゲ海の小島の二酸化炭素排出量削減に関する協力覚え書きに署名した。

・2日、スタイクラス財務大臣はデルフィ経済フォーラムの特別イベントに出席し、ギリシャ経済は 2021 年から力強い経済成長を達成し、2022 年には財政収支の均衡と不良債権一桁、2023 年には現実的なプライマリーバランス黒字の達成を目標にしていると述べた。

・6日、スクレカス環境・エネルギー大臣は、第 5 回閣僚級東地中海ガスフォーラムに出席した。会合は、エジプトの石油・鉱物大臣が主催し、ギリシャ、キプロス、エジプト、イスラエル、イタリア、ヨルダン及びパレスチナのエネルギー大臣が出席し、アメリカが初めてオブザーバー参加した。

・6日、当地で影響力のあるシンクタンクと言われる IOBE(民間の非営利組織)は、「昨年の 8.2%のマイナス成長の後、基本ラインのシナリオで、4 月になされた前回の成長予想 3.5-4%を引き上げ、ギリシャ経済は 5-5.5%リバウンドする見込みである。」と述べた。

・6日、議会においてザボス財務副大臣は、「4つの総合銀行は、パンデミックによって発生した不良債権の如何なる増加も扱いが可能(manageable)である。」と述べた。

・6日、ピレウスにて、ピレウス港湾機構のリン副 CEO とキプロスのディミトリアディス海運副大臣は、ピレウスーリマソル間のフェリー運航の開始について協議した。フェリーは年間を通して運航され夏季は便数を増加、乗客とともに自動車と貨物を運び、ギリシャの島を一つ経由する予定となっている。

・7日、欧州委員会は、夏の経済見通しを発表した。見通しによると 2021 年のギリシャの経済成長率は 4.3%で、5 月に発表した 4%見通しから上方修正された。2022 年の成長率は 5 月の見通しと変わらず 6%とされた。

・7日、スカラマンガ造船所の入札手続きが完了した。「MILINA ENTERPRISES COMPANY」と「PYLETECH INDUSTRIES」が応札し、ギリシャ人船主ジョージ・プロコピウ氏が保有する MILINA 社(キプロスの会社として登録)が入札開始価格の 3070 万ユーロよりも 21.5%高い 3731 万 6041 ユーロで落札した。

・8日、ギリシャ船主ジョージ・ダラクラス氏が 83 歳で逝去した。Dalex Shipping の創設者で、海運の他、観光や不動産の分野にも事業を拡げ、イスラエルおよびトルコとの経済関係構築の先駆者だった。議員を務めたこともあり、欧州議会の最初のギリシャ人メンバーの一人。

・9日、ギリシャと北マケドニアは両国間の天然ガス輸送システムの接続に関する協定に署名した。ギリシャ側はスクレカス環境・エネルギー大臣、北マケドニア側はベクテシ経済大臣が署名を行った。署名式には北マケドニアのザエフ首相や駐ギリシャ・パイアット米大使らが同席した。

・12日、財務省と欧州復興開発銀行（EBRD）は、ギリシャ復興計画への融資に関する覚書に署名した。EBRD はギリシャの民間投資に 10 億ユーロを融資する。

・13日に行われた EU 経済財務相理事会（ECOFIN）で、ギリシャの復興計画 Greece2.0 が承認された。これを受けてフォン・デア・ライエン欧州委員長は、「ギリシャにとって朗報だ。理事会の承認は資金提供を開始できることを意味する。次世代 EU はギリシャをグリーン化、デジタル化し、将来に向けた準備の助けとなるだろう。」とコメントした。

・13日、ピレウス港湾機構のリン副 CEO は、OLP 本部にて中山泰則駐ギリシャ日本国大使と会談し、ピレウス港の近代化と向上を目指した同港の計画および総合戦略について説明した。その後、一行はピレウス港内の施設を見学した。

・13日、国際防衛展（DEFEX2021）の枠組みで、ギリシャ航空産業（EAB）とエアバス・ヘリコプターズ（大手ヘリコプターメーカー、本部フランス）が空軍のヘリコプターのメンテナンスに関する提携覚書に署名した。

・15日、ギリシャ公的財産活用基金 TAIPED はエグナティア幹線道路の 35 年譲渡入札の価格提示書を開封した。応募したのは VINCI HIGHWAYS（仏） - VINCI CONCESIONES S.A.S.（仏） - Mytilineos（ギリシャ） - Avax（ギリシャ）のコンソーシアムと、GEK Terna（ギリシャ）- EGIS PROJECTS S.A.（仏）のコンソーシアム。

・15日、オンラインでピレウス港湾機構（OLP）の株主総会が開かれ、2020 年の財務諸表と配当金の分配が承認された。配当金の額は 1 株当たり 0.40 ユーロとなった。2020 年の OLP の総売上高は 1 億 3290 万ユーロ、税引前利益は 3,690 万ユーロ、税引後利益は 2,640 万ユーロだった。

・19日、トリポリ（ペロポネソス地方中央部の都市）にて EU の新しい共通農業政策に関するイベントが行われ、ミツオタキス首相が演説を行った。首相は、新しい EU の共通農業政策が第一次産業の運営、生産性の向上、地域経済にもたらす変化について強調し、ギリシャは安価で低品質の生産物ではなく、環境にやさしい高品質の生産物にターゲットを絞るつもりであることを語った。

・19日、スタイクラス財務大臣はロドス島を訪問し、市長をはじめとする自治体代表らと自治体が抱える様々な問題について協議した。その後、産業部門の代表らとも協議した。

・23日、欧州委員会とギリシャ政府の間で、復興計画の資金提供に関する合意書に署名が行われた。前払いとなる135億1527万9418ユーロ分で、この後ギリシャ国会で承認手続きが行われ、8月初旬に支払いが行われる見込み。

・補完年金制度の根本的な変更に関する法案が、24日国会に提出された。新規加入者を対象にした新しいシステムで、補完年金部分（年金は基礎年金と補完年金で構成されている）を貯蓄型にし、被保険者が自身で納入額を調整して将来の年金受給額を増やすことが可能となる。

・26日、ミツオタキス首相は最低賃金の2%引き上げを発表した。首相は、わずか2%の引き上げは明らかに労働者のニーズを満たさないだろうとしながらも、産業界からはパンデミックを理由に最低賃金の凍結の要請が出ていたことを明らかにし、今回の決定は現実的なものであること、また経済が徐々に回復の兆しを見せていることや、低所得層を少しでも支援するため、これを象徴するものになったと語った。

・29日、首相府で、2025年までに12億ユーロを製薬品業界に投資する計画が、ミツオタキス首相とギリシャ製薬品業界組合の代表との間で議論された。同首相は、「我々は、最良の価格で最良の医薬品が欲しい。我々の目に見える結果がある。我々は、研究・開発に投資する国内製薬品業界を支援してきたし、支援し続けるであろう。我々は市場に値する場所を見つける場所を見つけることができる。」と述べた。

・30日、スタイクラス財務大臣は国会で、現在のデータに基づき「ギリシャ経済は、速く強い経済回復のステージにある。2021年に 3.6%の経済成長目標を実現することは十分に可能であり、現実的であり、保守的な見込みでありさえする。」と述べた。

・30日、船主で元旅客船業協会会長のアンドレアス・ポタミアノス氏が 88 歳で逝去した。プラキオタキス海運・島嶼大臣は、近代ギリシャ海運の先駆者の一人として同氏の功績を称え追悼の意を表した。

2 財政

・ギリシャ中央銀行のデータによると、2021 年上半期は税収が増加したものの歳出が嵩み、財政収支は 132 億 9000 万ユーロの赤字となった。通常予算の歳出額は 314 億 7400 万ユーロ、前年同時期は 266 億 2200 万ユーロだった。また、2021 年上半期のプライマリーバランスは 92 億ユーロの赤字、前年同期は 67 億ユーロの赤字だった。

・26日に財務省が発表した予算執行状況によると、1～6月の財政収支は122億2000万ユーロの赤字となった。同期間のプライマリーバランスは90億9000万ユーロの赤字、純歳入額は219億7000万ユーロで、予想額を8800万ユーロ(0.4%)上回った。とくに6月の純歳入額は37億ユーロとなり、目標額を5200万ユーロ上回った。1～6月の歳出額は341億9000万ユーロ、パンデミックにおける経済対策のため支出が膨らんだ。

3 輸出入

・21日に発表されたギリシャ中央銀行のデータによると、5月の経常収支は14億ユーロの赤字となった。前年同月から4億7700万ユーロ赤字が増加した。輸入の増加が主な要因で、燃料を除く製品の輸出が29.5%増だったのに対し、輸入は40.4%増となった。1月から5月の経常収支赤字は前年同時期から約5億3400万ユーロ増加し、62億ユーロとなった。

4 観光

・ザハラキ観光副大臣によると、19日までの観光客数はおおよそ 230 万人で、ドイツからの観光客が最も多く 41 万 2000 人となった。驚くべきことにポーランドからの観光客が多く 20 万 2000 人、米国からの観光客は 10 万人となった。なお、2020 年の観光客数は 740 万 6000 人(コロナ禍により前年比 78.2%減)、2019 年は 3400 万 5000 人だった。

5 経済指標

(1)消費者物価指数

ギリシャ統計局の7月9日付の発表によると、6月の消費者物価指数は前年同月比 1.0%増となった。



(2) 失業率

ギリシャ統計局の7月27日付の発表によると、5月の失業率は15.9%となり、前月から1.2%減少した。



(3) GDP

ギリシャ統計局の6月4日付の発表によると、2021年第1四半期（1～3月）の実質 GDP 成長率は前年同期比マイナス2.3%となった。



（了）